

こんにちは、アレックス・ローゼン（博士）です。

ドイツ・ベルリン在住の小児科医で IPPNW ドイツ（核戦争防止医師会議のドイツ支部）の共同代表です。

これまでの 9 年間を振り返っても、原発事故は収束するどころか汚染地域の住民は被害を受け続けています。

日本政府と原子力産業界は繰り返し、放射能の健康への影響を過小評価し、原発事故の記憶を消そうとしてきました。

その一つが 2020 年夏のオリンピック・パラリンピックで、被災地はもう復興している、何もないと示そうとしています。競技は当初東京で予定されていましたが、野球とソフトボールは、福島第一原発から約 50 キロの福島市で開催されます。これは、日本政府が「復興」を強調する象徴的なことからの 1 つと言えます。

しかし現実にはまったく「復興」していません。いまだに数万人の人が、地震や津波だけでなく放射能汚染のために元の生活を失って避難を続けています。

日本政府は避難指示を解除して安全をうたい、帰還を促そうとしていますが、その地域の放射線レベルは（公衆の被ばく限度に関する）国際勧告の年 1 ミリシーベルトよりまだ高いところがたくさんあります。

象徴的なのが、3 月末に福島県の汚染地域をまさに横切ってスタートする聖火リレーです。これには医師としてコメントせずにはいられません。2019 年 10 月にグリーンピースが、スタート地点の J ヴィレッジで、日本の基準の 40 倍もの放射線量を示すホットスポットを測定しています。IPPNW は IOC にこの点を追求しましたが、リチャード・バジェット博士から「競技が行われる都市の空間線量は、世界の他の大都市と同等であると理解している」との返答がありました。しかし私たちが指摘するのはホットスポットの存在であり、汚染された山林から都市に放射性物質が流入する恐れについてです。IOC も日本政府もこうした観点を無視しています。

さらに放射線による健康影響も過小評価されています。2020 年 2 月、福島県民健康調査で、197 人（注）の甲状腺がんが確認されています。これは、日本の平均の発生率と比較すると 17 倍にもものぼります。日本の専門家はこれをスクリーニング効果である、すなわち詳細な検査で通常発見されないレベルの甲状腺がんも見つかっているだけだとしています。しかし今回のケースには当てはまりません。原発事故後、福島の子どもたち約 30 万人が 1 巡目の検査を受けています。しかし 96 人の甲状腺がんは、その時点ではなく 2014 年以降の 2 巡目以降で見つかっています。この 2014 年から 2020 年までの甲状腺がんの増加は、通常に比べ 23 倍、このようなケースは、チェルノブイリ原発の周辺地域以外には見られないことです。

もう一つ私たちが心配しているのは、汚染水の太平洋への放出です。4 基のメルトダウンが起こり、9 年経った今でも常に水を流して冷却が必要な状態です。その冷却に使われた放射

性物質を含む水は、一部地下に浸透したり海に流れたりしていますが、回収された汚染水は、タンクに詰めて福島第一原発の敷地内に置かれています。政府と東京電力は、敷地スペースを理由に、この汚染水を太平洋に放出しようとしています。多くの人が反対の声を上げています。政府は、安全なレベルまで放射性物質を取り除くとしていますが、実際にはトリチウムだけでなくストロンチウムなどほかの放射性物質残留していると示されています。

私たちは、オリンピック後に日本政府がこの汚染水放出を行うことを大いに懸念しています。「Dilution was never solution to pollution」（希釈は汚染の解決策ではない）と言われます。拡散することで、より多くの人が影響を受けることになるのです。

これらの理由から、私たちは医師として、日本政府や原子力産業の原発事故の健康影響の過小評価を警告します。当然ながら日本の市民も、世界中の市民と同様に健全な環境で健康な生活を送る権利、また健康を脅かす危険について知らされる権利があります。日本政府がこれを脅かそうとしていることに、私たちは大きな懸念を抱いています。

-----

FoE Japan 注:2020年2月までに県民健康調査で確認されたのは甲状腺がんまたは疑い 237人、手術し確定 186人。福島県県民健康調査検討委員会では、一巡目の結果について「わが国の地域がん登録で把握されている甲状腺がんの罹患統計などから推定される有病数に比べて数十倍のオーダーが多い」とする一方で、「事故の影響は考えづらい」とまとめています。

※甲状腺がんについての最新情報は、以下の「福島の今とエネルギーの未来 2020」の p.18 をご覧ください。

<http://www.foejapan.org/energy/library/pdf/fukushima2020.pdf>